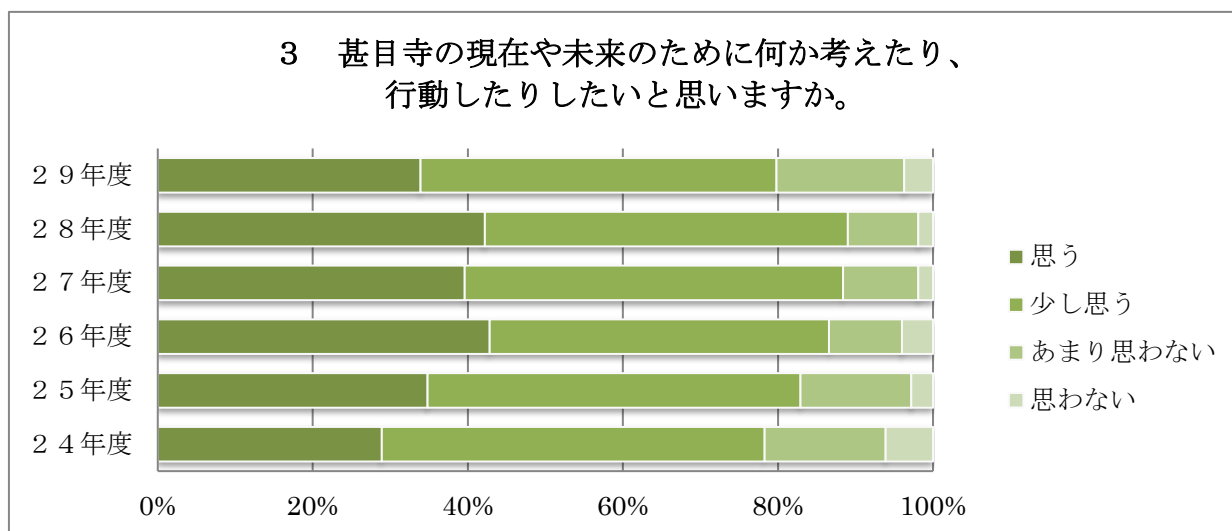
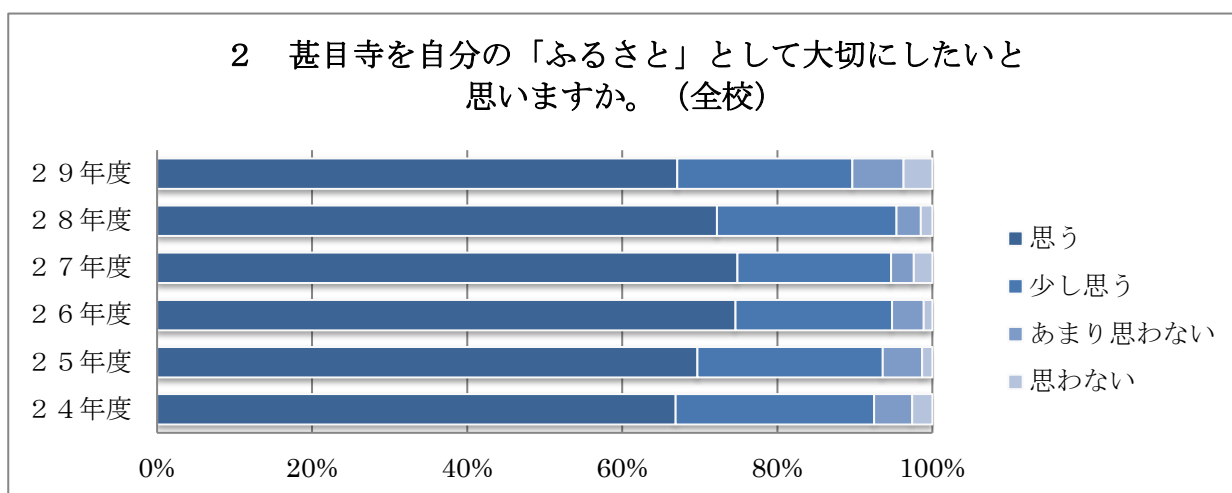
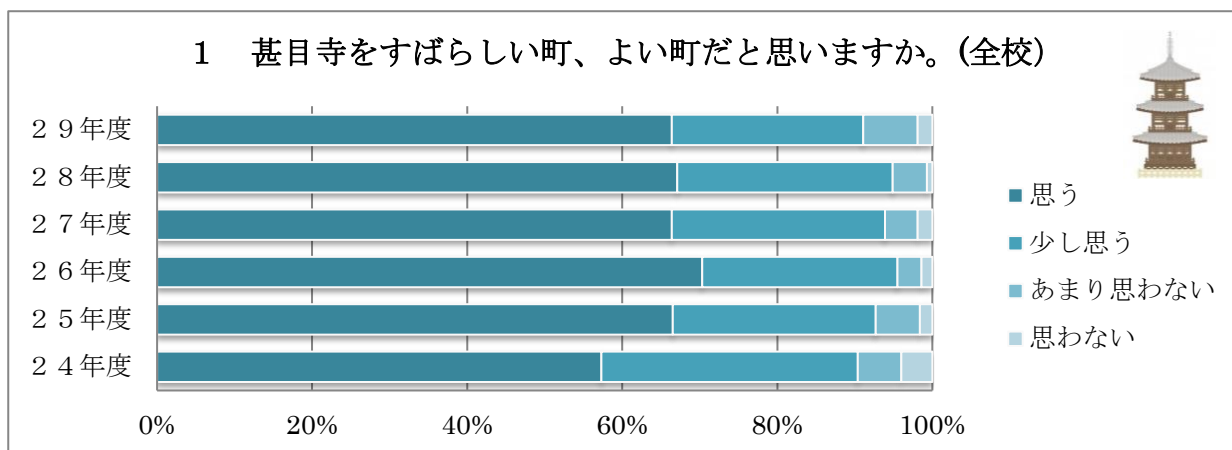


IV 研究のまとめ

1 本校の児童



本校では、ユネスコスクールに加盟した平成 24 年度より、児童対象に ESD のアンケートを実施している。自分たちの住む甚目寺をすばらしい町だと思っている、少し思っている児童を合わせると、全体の 9 割以上の児童がそのように思っている。甚目寺小 ESD 「ふるさと甚目寺」を通し、小学校 6 年間で地域の人々とかかわり、様々な視点で「ふるさと甚目寺」を学んだ結果、ふるさとの良いところを見つけることができていると考える。甚目寺を自分の「ふるさと」として大切にしたいかという問いに対しても、9 割以上の児童が肯定的な回答をしている。甚目寺地区の良い点だけでなく、問

題点についても考え、どうしていけばその問題が改善されるかについて考えることができている結果だと考える。甚目寺のために何か考えたり、行動したりしたいと思うかの問いには、思う・少し思うと答える児童の割合が8割を越えている。

また、全国学力・学習状況調査の結果から、友達との話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思っている児童は、毎年7割以上に達している。この項目の全国平均は年によって変動が大きい、本校では安定した数値を示している。

2 研究の成果

(1) 仮説1について

「聞く・話す・話し合う能力表」の見直しにより、各学年における到達目標を系統立たせ、確認しやすいものにすることができた。4年生の社会科の授業では、双方向のやり取りを行うために、シンキングツールを使って、自分やグループの考えを明確にした上で話し合いをさせた。自分の意見を明確にさせることで、友達との意見の相違点をはっきりさせ、課題について追究するやり取りを行うことができた。5年生国語のインタビュー活動を扱った単元では、インタビューの観点ごとによる振り返りと単元を通しての次につなげる振り返りを行うことで、自分自身のできている部分、できていない部分に気付かせることができた。実際の取材活動でも、見学して疑問に思ったことを質問したり、説明についての感想を述べたりすることができた。また、相づちを打ったり、うなずいたりしながら話を聞くことができ、国語科で学習したインタビューの仕方を取材活動で生かす姿が見られた。

(2) 仮説2について

夏休みには、5年生、6年生が甚目寺地区の様々なところに取材活動に出かけた（年によって4年生も出かけている）。事前に出前授業を受けているところもあり、取材前には多くの質問を考え、取材時には興味深く見学する姿が見られ、積極的に質問することができた。

出前授業や取材活動等の体験的な学習を繰り返し設定することは、児童に興味・関心や問題意識をもたせることができ、学習意欲を高めることにつながると感じた。

V 今後の課題

本実践は、E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度をコミュニケーション能力に絞って取組を進めてきた。双方向のやり取りについては、各学年でやるべきことが見えてきたが、よりはっきりとした到達目標を設定し、それに向けた具体的な手だてを考えていく必要がある。また、「聞く・話す・話し合う能力表」の活用の仕方については、今後は教師だけでなく児童が能力表を見て、活動の見通しをもたせたり、振り返りをさせたりできるよう考えていきたい。

アンケート結果を見ると昨年度末の結果がそれ以前のものよりも数値が低くなっている。E S D活動が定着する一方で、活動に対する目新しさが薄れてきた部分があるのかもしれない。社会を取り巻く諸問題には、変わらず考えていかなければならないもの、時代の流れから新たに生まれてくるものがある。それらを踏まえ、子どもたちにとって主体的な学びにするために、引き続きE S Dカレンダーや単元計画、各授業を見直しを進めるとともに、問題意識をもたせるための単元や授業の流れを工夫していきたい。本年度はSDG sのアイコンをE S Dカレンダーの単元とリンクさせたが、それぞ

れの学びが将来のどんなことにつながっていくのかをしっかりと考えさせ、子どもたちの進んでE S D活動へ取り組む姿を目指し研究を続けていきたい。また、持続可能な開発のための教育であるE S Dが教員にとっても持続可能なものであることも大切な要素の一つと考える。児童・教師がともにじっくりと課題に向き合うことができるように、内容の精選を図っていきたい。

おわりに

本校のE S Dは、平成 22 年度にその考えを導入する準備から始まりました。以来、9年に渡り、子ども・教師・保護者・地域それぞれの「つながり」を深めてきました。今回、研究委嘱をいただいた2年間は、これまでの取組を集約・焦点化した期間とも言えます。今日の姿に至るには、本校に勤務した多くの教職員の工夫と努力の積み上げによるところが大きいことは言うまでもありません。研究は道半ばですが、研究を通して創り上げてきた職員のチームワークは、本校にとってかけがえのない宝物になりました。

本日の研究協議会で、様々な角度からご指導・ご助言をいただいた皆様に感謝申し上げますとともに、これまでの成果と課題をふまえて、さらに研究を進めていきたいと思います。今後とも本校へのご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、本校の研究推進にあたり、ご指導・ご助言をいただいた皆様、ご支援を賜りました関係諸機関の皆様に心より感謝申し上げます。

ご指導をいただいた先生方

〈29年度〉

海部教育事務所所長	浅野 薫史 様
海部教育事務所指導課長	梶浦 寿男 様
海部教育事務所主任指導主事	石橋 裕次 様

〈30年度〉

海部教育事務所所長	土方 宗広 様
海部教育事務所指導課長	小川 俊二 様
海部教育事務所主任指導主事	市川 昇 様

〈29・30年度〉

愛知教育大学教授	土屋 武志 様
中部大学客員教授	中島 康博 様
特定非営利活動法人ボランティアネイバーズ 主任研究員	新海 洋子 様

研究に携わった職員（順不同）

〈30年度〉

栗木 一郎	安部 香里	鬼頭 一仁
城 知広	山田 雄次	西川 建也
松岡 和志	伊藤 綾名	山下 和美
山口 庸治	窪田 有実	野村万里子
鈴木 花果	村瀬 太一	松田真利子
加藤 大地	宮崎 正枝	大鹿 智子
原野 祥子	横井 克哉	加藤 有望
川村ゆかり	浅野 由佳	柘植 悠帆
小見山恵子	湯澤 葉子	深谷 知希
住田 英子	牛田 洋美	丹羽 元美
大藪 史歩	松田真理子	増田志津恵
南谷 睦	高木 千照	村上 義彦
立松 徳之	大野 順子	小久保一代
かんづらイデン	曾根 由美	平子 正江
花木 純子	安藤 圭子	鹿島 千佳
宮田真梨子	副田 亜紀	横田 彩織
大下 栄子	友田 千春	宮地小夜子

〈29年度〉

石田 祐子	南山 哲	福田 伸子
尾崎とみ子	篠 大貴	毛利 晴次
内田 敦子	木村 忠	高木 菊美
服部 佳子		